

さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期大学院会報第4号

嬉しい出来事

副会長 三品 〇〇

二世紀半（253年）ぶり、菩提寺の建て替え工事が完成し、今年5月3日に落慶法要（一般家庭で言う新築祝）にこぎ着けた。法要前後の一週間位、菩提寺の世話人として私も朝早くから大忙し。お寺にしてみれば253年ぶりの大イベント、色々な催しの一つであるお稚児行列に孫も加わり、家族全員参加の最高の思い出になりました。

家に帰り、上の孫（高校生）に「5月1日はシニア大学の入学式、2日は寺の予行、3日は落慶法要と大変だった」と話すと、孫は「へー、大学院に行くの。すごい」と褒められびっくり。直ぐに「大学院と言っても試験もないし、カリキュラムの内容も現在話題になっていること、これからの問題、つまり社会勉強。為になる話が多くとても楽しい。為になる話なのに右耳から聞いてなぜか左耳からスーと通りすぎることも・・・」また文化祭、遠足、クラブ活動等、色々な人との出会いなどを話すと「学校に行くだけでもすごい。休まず続けてネ」だって。何だか嬉しくなりました。

又、これって取り柄のない私ですが、話をしたり、話を聞いたりするのが好きで傾聴を学び、時々ホームを訪ね高齢者や色々な不自由な方の話を聞いたり、コミュニケーションを取ったりなどの活動もしています。喜んで頂いたときには本当に嬉しくなります。こんな私ですが今年もよろしくお願ひします。

第1回花散策・花菖蒲

花散策クラブ 5班 田中 〇〇



梅雨の晴れ間、「花菖蒲」をもとめて、見沼の染谷花菖蒲園に行きました。今回の参加者は6名です。プランナーの私は、集合時間前に大和田の駅に着いたのですが、30分前についていた人もいてビックリでした。コミュニティバスにのって、見沼区の東縁を走るこの路線は、緑の多い所を走り、チョット小旅行です。染谷中でバスを降りて、少し歩いて到着です。入園すると、木々にかこまれた、花菖蒲が目の下に広がっていました。紫陽花の間の階段を下りて、庭園を歩きました。花の色は数えきれない、定番の紫、白、赤紫、言葉で美しさを表現する事は難しい。周囲には、沢山の同世代と思われる人々が絵筆を動かしていたり、写真を撮ったりしていました。

私たちは、ゆっくりと花々の間を散策し、花菖蒲の美しさを堪能しました。途中、ベンチで持ち寄りのお菓子で休みを取り、おしゃべりの花も咲きました。見晴らし台にのぼり、庭園全体を眺めながら、日の光に輝く花の色。これだけ見事に咲かせる苦労等などに思いを馳せました。

庭園を出て、約1kmの旧坂東家住宅、「見沼くらしっく館」まで、ミニハイキングをしました。太い梁、黒光りする床、広い土間、障子で間切りされた部屋は開放せば、60畳になるほど広い豪農と言われる民家に感動。広い部屋で足をのばし、「かやぶき屋根」の涼しさ、吹き抜ける風を十分に味わい、「くらしっく館」を出ました。表に出ると、そこにはバス停「三崎台」、バスで大宮に出でて「東鯰」でランチ、今日の感動を話し、次回「蓮の花」への期待を新たにしたい一日でした。

連合会・協議会便り

1. 学習講演会第一回として7月10日（木）「東京オリンピックから半世紀のわたし」というタイトルで、高松〇〇氏（大宮8期・現連合会長）のスライド講演が本丸公民館視聴覚ホールで開催。
2. 7月15日（火）福祉専科授業の一環として午前10時から11時半まで大宮の活動センター3階において、市職員の兼山〇〇課長代行が「さいたま市の高齢福祉」についての講演があった。（報告者・澄川〇〇）

私の故郷 長崎市

5班 小野 ○○



私の故郷は九州長崎です。19歳で上京して約49年東京や埼玉で過ごしました。東京は4年で埼玉県。今では関東人ですね。最近では故郷の墓参りなど少し足が遠のいて親不幸しておりますが、TVや雑誌などで長崎がテーマなら必死で見えています。以前は郷里のことなどあまり関心が無かったが、最近では懐かしく思い・・・年齢のせいかな？

長崎は観光と造船の町と言われていますが、観光では鎖国時代の外国との窓口であった出島。キリスト教布教のシンボル大浦天主堂など。貿易などで近代日本に大きな影響を与えたグラバー邸。原爆公園など・・・少し足をのばすと雲仙温泉やハウステンボスなどがあります。造船は三菱重工長崎造船所、戦時中は軍艦、高度成長時代はタンカー船、今は豪華客船も建造しているらしい。

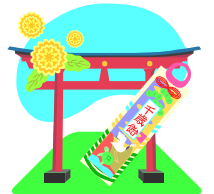
食べ物はちゃんぽん、皿うどん、卓袱料理（中国料理・西洋料理が日本化した宴会料理）。土産品ではカステラ、かまぼこ、酒好きには「からすみ」が喜ばれます。

また、季節行事があります。春はハタ合戦（凧）、夏は旧盆の8月15日の精霊流し、秋は長崎くんち。最近では2月のランタン祭り（中国の旧正月を祝う行事“春節祭”を起源とするらしい）。

長崎の方言に“さるく”という言葉があります。これはいろんな場所（観光地など）をぶらりと歩きながら散策するという意味らしい。是非、九州旅行されるときは長崎の町をゆっくりと“さるく”して異国情緒の町、長崎を楽しんでください。

岩槻史跡めぐり

5班 澄川 ○○



平成26年6月18日、9期生史跡めぐりクラブの15名が参加し、石川講師（元岩槻ボランティア協会）のガイドにより、岩槻駅前を午前10時にスタートした。昨年計画していたが、悪天候のため中止になった経緯がある。曇り空であったが暑くもなく寒くもなく、街の樹木の緑がとても印象的だった。

ワッツ西館入口付近に国指定真福寺貝塚のミミズク土偶が展示されていた。駅前を以前から通行していたが、知らなかった。丹過口を經由、愛宕神社へ向かった。愛宕神社は防火の神様であり、大正12年の大震災で倒壊し再建されたとの事。木々に囲まれ社殿はこじんまりしていた。旧区役所角の御成り道の一里塚を通り、岩槻では有名な「時の鐘」を見学。いまでも一日3回自動的に鐘を突いている。ときどき我が家において聞こえる時がある。「時の鐘」を後にして、大手門跡に寄り空堀を見学、江戸時代の様子を偲ばせる。大手門を過ぎると、城址公園内に番所、侍屋敷、米蔵が続き今では、往時の面影を残すのみとなっている。

この辺りまで、約2時間歩き皆に疲れが出てきた。岩槻城の表門と言われている黒門の前で記念撮影をし休憩した。数十分休んだ後、後半の行程に進んだ。公園内の人形塚を觀て裏門から岩槻城跡へと向かった。その後樹齢は不明だが、大ケヤキといわれる、樹の大きさでは区内一といわれる樹木を見学、立派な大木だった。公園を後にして、最後に児玉南柯が開設した私塾である遷喬館（40坪くらいの質素な建物）を見学した。ここで今日の岩槻史跡めぐりは終了。岩槻で生活していても普段なかなか行くことができないが、今回をきっかけにもう少し地元を勉強してみたい。参加した皆が満足した3時間の史跡めぐりだった。

“TSUKEMEN LIVE”

2班 中山○○

男性3人のユニットです。ピアノ1人、ヴァイオリン2人、皆さん音大出です。他のコンサートに行きました時、見つけて若い方の音も聞いてみたいと思い、2012年12月に行ってきました。手足がとても衝撃的でした。ゲーム音楽です。私、ゲームを知りませんので、ビックリです。後はアニメソング、クラシック、ジャズ、映画音楽、そしてオリジナル曲等多彩です。昨年位からもう一度、聴きに行きたいと思っていました時つい最近見つけて、7月26日に行きました。生音（音響装置を通さない）で聴くことが出来るコンサートです。TSUKEMENとはT=TAIRIKU, SU=SUGARU, KE=KENTA MEN=男です